

「肝がん、膵がんに対する腹腔鏡下手術」

腹腔鏡下手術ふくくうきょうかしゅじゆつは開腹手術に比べて傷が小さく、術後の回復が早いいため近年急速に普及しています。当院外科でも胆石の手術、ソケイヘルニア（脱腸）の手術、虫垂炎ちゆうすいえんの手術をはじめ、胃がんや大腸がんの手術を積極的に腹腔鏡下手術で行ってきました。一方、肝がんや膵がんの腹腔鏡下手術は難易度が高いため、国が定めた施設基準を満たした限られた施設のみで行われています。

当院には、昨年4月より肝がん、膵がんすいの腹腔鏡下手術を専門とする医師2名が赴任しました。国が定めた施設基準も満たしたので、昨年5月から膵がんの手術の一部、9月から肝がんの手術の一部を腹腔鏡下手術で行っています。さらに今年1月からは高難度腹腔鏡下肝切除の施設基準も満たし、多くの肝がん手術を腹腔鏡下手術で行っています。

当院には、4K画像の腹腔鏡下手術システムや、腫瘍しゅようや血流を光らせて確認できるICG蛍光法システムなど、充実した設備があります。外科以外にも泌尿器科や産婦人科で腹腔鏡下手術が行われていて、手術室スタッフの経験も豊富です。これまでの当院の経験と、新たに赴任した医師との経験が融合され、質の高い肝がん、膵がんに対する腹腔鏡下手術が可能です。また、日本内視鏡外科学会の技術認定制度では肝がん、膵がんの分野で県内唯一の認定を受けています。（令和4年12月現在）今後はさらに多くの肝がん、膵がんの患者さんが安心して腹腔鏡下手術を受けられるよう、体制をより充実させていきます。



外科部長 北東 大督